CancerX がんに対する社会意識調査 2020（1/3）

調査目的

2020年2月時点での「がんに対する社会の意識」を可視化。この調査によって改めて明らかになった課題を共有し、「がんと言われても動揺しない社会」を目指して、様々な立場の方が課題の解決に向けて利用できるようにデータを収集・分析。今後も調査を行い、社会の意識変化を定期的に観察していく。

92%が知らないリアル

「国民の◯人に1人はがんになり、□人に1人はがんで亡くなる」上記の◯と□に合う1～10の数字を入れてください。

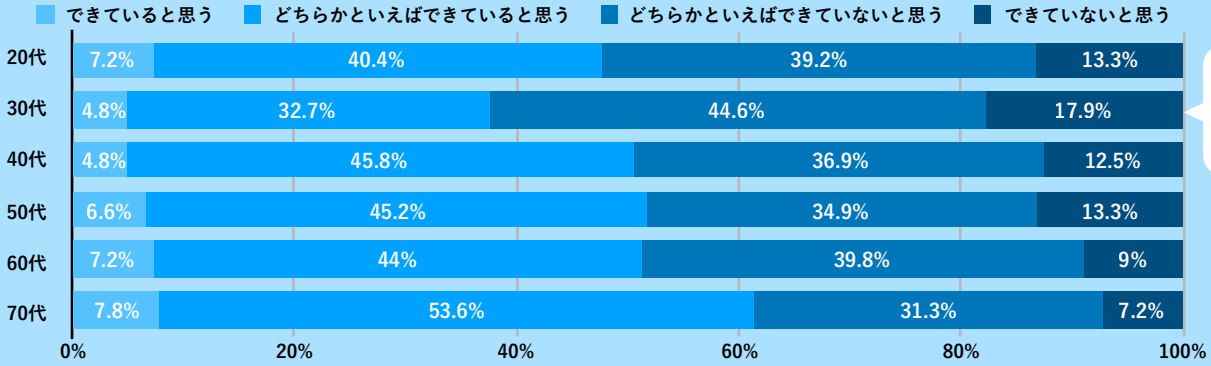
参照：国立がん研究センター がん情報サービス 最新がん統計

最新がん統計によると、国内で2人に1人はがんになり、3人に1人はがんを原因として亡くなる。「2人に1人の罹患率」の認知は全体の33.6%、「3人に1人の死亡率」の認知は全体の21.2%。いずれも解答できた人は8.2%にとどまった。

「2人に1人」の解答に「10人に1人」と答える人も。
メディアの報道や広告で言われているが、認知はまだまだ。

約半数が、がんの医療情報の真偽に戸惑っている

あなたは、がんをはじめとした医療情報について、信頼できるものとそうでないものを、適切に判断できていると思いますか。



30代は6割以上が
戸惑っている。

がんに関する情報源は、通院先とネット

どこから医療情報を入手し、判断に役立てていますか(複数回答可)。

	担当医や通院している病院	医療者である家族・知人等	がん罹患経験者やその家族	テレビ、新聞、雑誌など	インターネット
全体	82.1	27.5	15.8	30.3	65.3
20代	76.5	28.3	21.7	36.7	67.5
30代	80.4	35.1	17.3	36.3	72.0
40代	80.4	29.8	16.1	28.0	67.3
50代	83.1	25.3	16.9	19.9	68.1
60代	86.1	22.3	10.2	29.5	59.0
70代	86.1	24.1	12.7	31.3	57.8

全体の傾向として
通院先とネットの割合は
半数を超える。
知人を頼るのは3割にも満たず。

CancerX

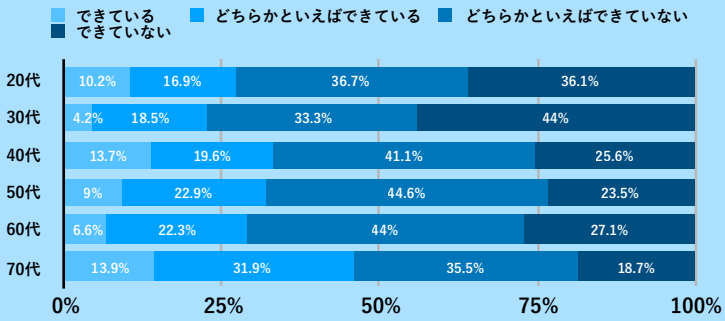
本調査結果、インフォグラフィックは「クリエイティブ・コモンズ CC BY」 の下で提供されています。

CancerX がんに対する社会意識調査 2020（2/3）

若いほど想像しにくく、話しにくい終末期

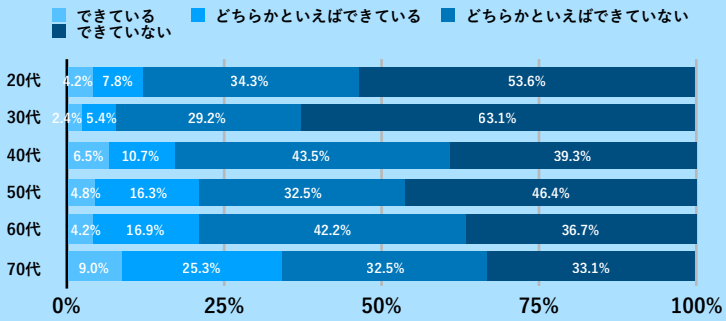
もしあなたが、終末期になった場合、どのような終末期を迎えたいか、イメージできていますか。

全体で**約７割**ができていないが
70代は平均に比べできている割合が約14pt高い。



あなたは大事な人と、どのような終末期を迎えたいか、一緒に話をしたことがありますか。

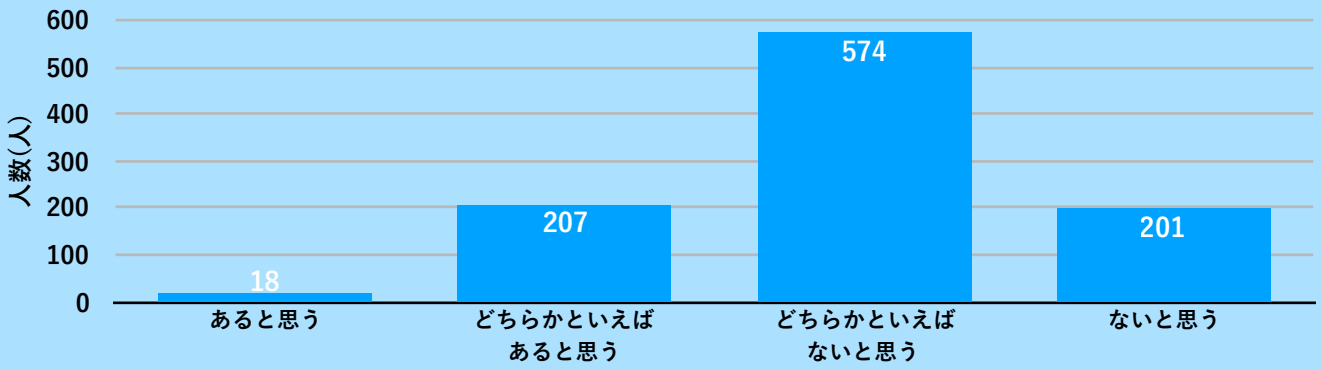
全体で**約８割**ができていない。
特に、20代と30代では１割程度しかできていない。



年を重ねるにつれて自身の終末期をイメージし、対話する機会も増えている。
世代を問わず終末期の話をするには、そのきっかけや心の準備、周囲のサポートが大切。

約8割が、社会のサポートが足りないと感じている

あなたは、この社会は、がん患者の方にとって、十分なサポートがある社会だと思いますか。



世の中にはがん対策としての政策や保険商品なども多く存在する。しかし約8割の人がサポートが足りないと感じているのは、まだ解決されていない課題が多いのか、あるいは既に存在する仕組みやサービスを活用できていない状態なのか、その実態を見つめていく必要性がある。

CancerX

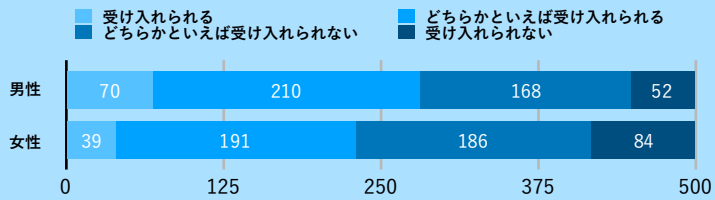
本調査結果、インフォグラフィックは「クリエイティブ・コモンズ CC BY」 の下で提供されています。

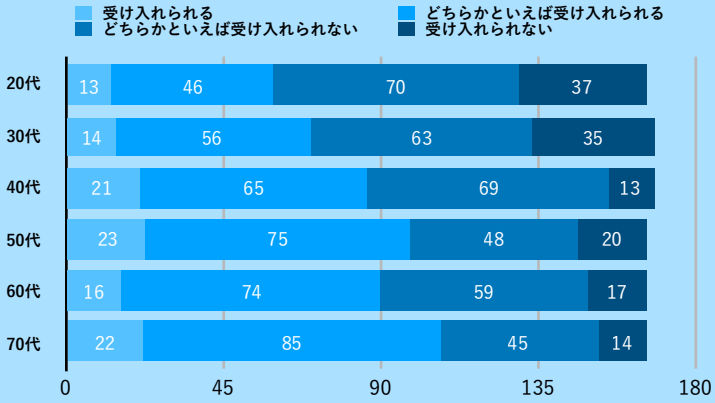
CancerX がんに対する社会意識調査 2020（3/3）

がんと言われると、やはり動揺する

あなたは、今後、がんに罹患したと知ったとき、大きな動揺なく、受け入れることができますか。

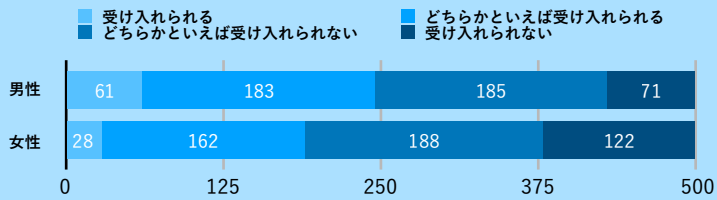
男性に比べ女性のほうが受け入れられない。
年齢を重ねるほどがんを受け入れられるようになる。

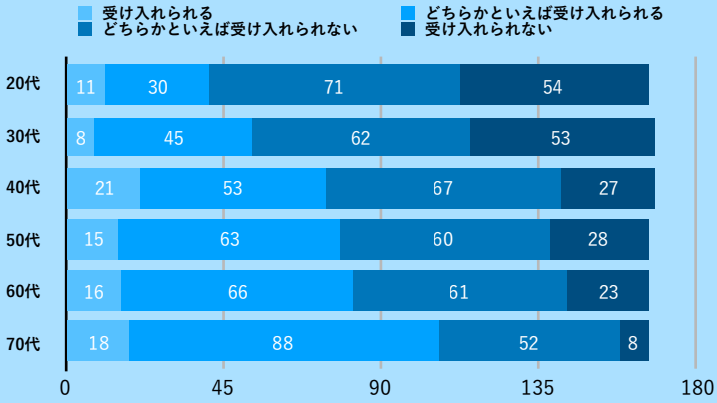




あなたは、あなたやあなたの大事な人（家族・友人など）が、がんに罹患したと知ったとき、大きな動揺なく、受け入れることができますか。

左の質問と比べると、自分よりも大事な人ががんになることの方が受け入れにくい現状。





つまり、がんに関する医療的・社会的なサポートは患者本人の他に周囲の大切な人たちにも厚くしていかないといけないということ。自分も大切な人もがんと言われたときに、より良い選択をしていくためにはどんな備えが必要なのか、お互いの価値観はどうなのか、先んじて話したり共有しておくことも大切。

まとめ

がんに関する問題意識の共有が大切であることが、改めて明らかになった。がんと言われた本人だけでなく、その周囲へのサポートも必要なことが見えてきた。また、多様な立場の人たちが発言し、意見を交換することで、既に存在する政策・福祉、サービスなどを活用できそうである。今後、あらゆる側面からがんにアプローチし、理解を深めることで、少しずつ「がんと言われても、動揺しない社会」を目指していく。

「CancerX がんに対する社会意識調査 2020」 概要
- 調査対象　：　20歳～69歳までの男女1,000名
- 調査エリア　：　全国
- 調査時期　：　2019年12月
- 調査方法　：　インターネット調査

本調査に関するお問合せ
一般社団法人CancerX　info@cancerx.jp

CancerX

本調査結果、インフォグラフィックは「クリエイティブ・コモンズ CC BY」 の下で提供されています。